2023-24 年度
福山西ロータリークラブ

例　会　情　報

第 1572 回（39）

会　長　瀬尾　義裕　　幹　事　黒木　成光

クラブ会長テーマ

「 次世代に希望を繋ごう！～手を取り合って～ 」

日　　時	2024 年 6 月 4 日（火） 12：30 ～
場　　所	福山ニューキャッスルホテル　他
例会行事	点鐘 ・ ソング 「 君が代・奉仕の理想 」
	ゲスト・ビジターの紹介 （ 出席報告参照 ）
	会長報告
	幹事報告
	出席報告
	ＳＡＡ報告
	スマイル報告
	プログラム情報
	その他報告
その他情報	メークアップ情報 （ 来週分 ）
	メークアップ情報 （ 再来週分 ）
	今後の行事予定
	クラブ活動報告

世界に希望を生み出そう

【 会 長 報 告 】

前回例会では会長不在となってしまい，申し訳ありませんでした。予め提出していた前回報告に記載していたとおり，私を含む８名は約１週間に亘ってシンガポールに滞在し，シンガポール大会に参加して参りました。また，大会期間中，カンボジアの児童養護施設であるスナーダイクマエさんを一泊で訪問し，施設の現状を学ばせて頂きました。本来であれば，国際奉仕事業としての施設訪問の報告機会を設けることが望ましいのですが，年間予定との兼ね合いで正式な報告の場を設けることが出来ませんので，本日，会長報告として皆様にお伝え致します。

スナーダイクマエはカンボジア国内にある民間の児童養護施設であり，日本人のメアス博子さんという方が実質的代表を務める施設です。博子さんは，日本にも縁のあったカンボジア人男性と結婚され，１９９９年からプノンペンに移住されましたが，夫が開設したスナーダイクマエの運営に関わるため，間もなく，施設のある第二都市シェムリアップに転居されました。当時の施設は衛生面などで多様な問題を抱えていたようで，赴任後，博子さんは清掃・衛生・食事の各分野で対応を始められ，献身的に活動する博子さんの姿を見て，子供達自身の行動が大きく変わっていったということです。現在では，カンボジア国内でも多数の児童支援施設が活動しているため，スナーダイクマエでは，貧困だけでなく，虐待等の重篤な問題を抱えた子供たちを対象に支援を行っています。

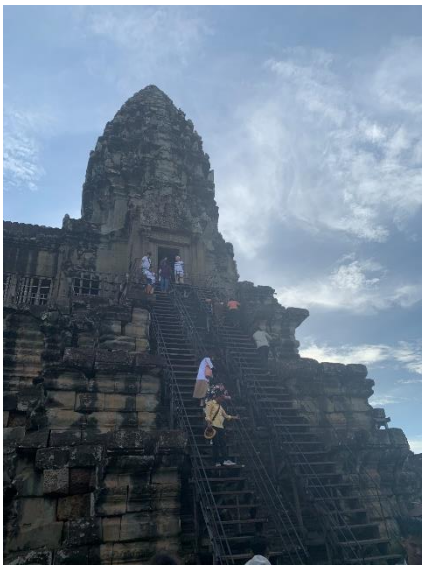
我々がカンボジアを訪問した際，施設の卒業生であるパナーさんという男性がアテンド役を担ってくれました。パナーさんはカンボジア国内全域のガイド資格を持つ方で，主に日本人を相手にしたガイドをなさっています。また，施設を運営する NPO 法人の代表理事を務めている卒業生のラボさんも途中合流してくださいました。お二人とも仕事を持ち，家庭を持っている方であるため，施設の子供たちにとっては憧れの存在ということです。

博子さんが達とは昼食をご一緒し，約２時間かけて施設の経歴や現状，運営方針などを細かくお聞きしました。その後，実際に施設にお邪魔して，現地の子供たちが勉学に励んでいる中，各建物や設備を拝見して，運営状況やその問題点を現地視察させて頂き，当年度の支援金を贈呈致しました。

画像を添付しますので，ご覧下さい。

最後に，この度の支援金贈呈と現地視察はあくまでも次なる事業の端緒と理解しており，次年度又は次々年度における同施設への支援事業を見据えています。みなさまには，スナーダイクマエという児童養護施設への理解を深めて頂き，次の事業にも積極的に関わって頂きたいと思います。

【観光　アンコールワット】



【日本人朝食会】

【2023－24 年度　RI 会長 ゴードン R.マッキナリー会長】

【国際大会 開会式】

【ガバナーナイト】

【 幹 事 報 告 】

No.	内　　容
1	第 2710 地区事務局より ・2024 年 6 月｜ロータリー親睦活動月間 ・財団室 NEWS　2024 年 6 月号 ・2025 年カルガリー国際大会のご案内資料
2	
3	

【プログラム情報】

《 新会員卓話 》

【 茂原 祥司　さん 】

2024 年２月６日 入会
株式会社 オリキン
代表取締役
職業分類：古物商

こんにちは。
株式会社オリキンの茂原祥司です。
これから私茂原祥司のことについてお話をさせていただきます。

こちらの題目通りにお話しします。
新会員卓話と言うことで私の趣味、生い立ちから会社の設立、現在に至るまでの会社のことをお話しします。

名前は茂原　祥司です。
生年月日は１９８９年9月２０日生まれの３４歳です。
福山生まれの１８歳まで福山で育ち、１９歳から１３年間大阪にいました。

家族構成ですが父、母、兄の４人家族で、今現在父と母の三人で暮らしています。兄は岡山に住んでいます。
そして、私の家系ですが祖父、父、兄と医師でして私も挑戦しましたが頭が悪すぎて医師になれませんでした。

趣味はゴルフと旅行で、ゴルフは２年半前に初めて行き始めました。コロナ禍で始めましたのでかなりゴルフはハマりました。４月２６日にはロータリーで倉敷カントリーへ言った際は１１１で全然でしたが、最近ベストスコアの９２が出ましたが、まだまだ上手くはありません。平均では１０５ですのでもっと上達できるように努力しています。

またもう一つの趣味である旅行ですが、遠いところは海外のハワイとグアムに行きました。

グアムですが家族旅行で行きました。ラッテストーン公園という公園は旧日本軍の防空壕跡や約１.５Ｍの謎の石柱が並び日本とグアムの歴史的関係が感じられました。食事は『ローンスターステーキハウス』で日本の２倍位の厚さのステーキを堪能し、夜は『アンコール』と言う劇場でホワイトタイガーを使ったイリュージョンやマジックを見た記憶があります。

ハワイですが高校の修学旅行で行きました。ハワイではダイヤモンドヘッドの裾野に広がるカピオラニ公園へ行ったり、日立の CM で有名なモアナルア・ガーデンを見たりアラモアナセンターでショッピングをしたりと楽しかったです。

日本の旅行ですが、沖縄には２回行きました。１回目の家族旅行は急に決まったので兄と２人で計画を立て、美ら海水族館、首里城、ステーキハウス、クルーズ、などへ行きました。どこも異国に迷い込んだ建造物、青い海と空沖縄らしい光景が広がりました。両親も楽しんでくれたようで少し親孝行できたかなと思います。２回目は兄と２人で行きました。兄と２人で行った思い出は１回目の家族旅行で行けなかったところに２人で行き、やんばる国立公園大石林山（だいせきりんざん）に行ったり、ソーキそばを食べたりしました。
国立公園は時間があまり無く１コース 30 分かかるところを走って 10 分で見ましたのであまり覚えていませんがガジュマルの木ははっきり覚えています。
ガジュマルの木は１０～２０Ｍの枝から多数の根を出す独特の姿をしています。老大木になると形状が神秘奇怪に見え、キムジナー（木の精）が住むと怖がられもしたそうです。迫ってくるような風格は忘れられません。
兄とは沖縄以外にも九州旅行に行きました。その時のエピソードはトイレ休憩で通りかかった神社に行くと休み時間なのかタバコを吸っている警察官に出会い福岡の柳川で鰻を食べたら良いよと教えてもらい柳川にある「若松屋」に行きました。そこは本当に美味しく教えてくださり感謝しました。兄とは今でも仲が良いのですが最近はゆっくり話すこともなくなり少し寂しい気もします。でも、甥を連れて時々来るので楽しみにしています。
家族で北海道に行った時、予定のツアーとは違うツアーのバスに乗ってしまいキロロと言うスキー場に行ってしまいました。北海道でもパウダースノーで雪質の良いスキー場の一つだったそうです。僕は小学１年だったので初級コースで練習しストックなしで練習していました。初めてのスキーでしたがすぐに滑れるようになりました。兄は中級コースに参加したそうですが滑れず帰らされたそうです。そして、初級から練習したようです。ですが頑張って滑れるようになっていました。
両親から聞いたんですが、お正月だったのでお店が空いてなく困りましたがタクシーの運転手さんに聞き、入った居酒屋はどれも美味しく鮭丼は大きな切り身が乗り、いくら丼は溢れる程でした。ホテルの食事もボリュームのある品々でした。運転手さんは曰く時期になると鮭からいくらを取り出し加工されるそうです。さすが北海道。羨ましいです。

最近の旅行では１人で２月に岩手県二戸市と言う場所の金田一温泉へ行ってまいりました。金田一温泉は江戸時代に南部藩が指定湯治場として戦で負った侍の疲れや傷を癒してきたところから『侍の湯』とも呼ばれている温泉です。そこにある『緑風荘』と言う旅館に宿泊しました。ここは座敷童が出ることで有名で宿泊しました。実際に座敷童が居たかどうかは分かりませんが夜中に何度もドアを叩く音は聞こえたので多分居ると思いますが、旅館の方かもしくは隣の部屋に宿泊していた本物の子供かもしれません。次の日は仙台に行き,ずんだ餅を食べたりし満喫しました。

そして子供時代、母親から聞きましたが、幼稚園の時は片付けが嫌でおもちゃをリュックに入れ、家出を試み家の周りを２週ほど回って帰ってきて心配かけさせたり、兄にセミを服に付けられ大泣きしたりしていたそうです。

小学生は明の星小学校に通っていました。低学年の時は川の中に自転車を放り投げ川の中を走らせたり、バス通いでしたのでバスを待ってる間に川の中に入りザリガニを捕まえランドセルの中の教科書を捨てて中にザリガニを入れて持って帰ったりと中々破天荒なことをしていたのを思い出しました。
そこから小学５年生の時に糖尿病になり学校を２ヶ月間休み学校に行くのが楽しみで行きましたが、すぐにイジメに遭い学校に行くのが嫌になり休む日もありました。
ただ、卒業間近になり皆と馴染み和気藹々と卒業ができました。

そこから、中学は銀河学院中学校に入学しソフトテニスを頑張りました。朝から夜までテニスのことばかり考えて部活に行くことが楽しみで夢中になっていました。戦績は全く良くなかったですが好きでやっていましたので楽しかったです。
テニス部の顧問の先生に大切なことを教えていただきましたことを覚えています。部活中に私が糖尿病の低血糖になった際に、先生がジュースを買ってくださいました。その際に『お金は後で返します。』と先生に言いましたらに先生が『そんなことではなく先にありがとうと言いなさい』と言われました。その言葉がずっと忘れられず、人には『ありがとう』と言おう、そして『ありがとう』と言われる男になろうと決めました。
高校はエスカレートで中学と同じ高校に行き、高一までテニスをしていました。勉強もそれなりにしていて、高一では数学や化学など学年で一位をとったりしていましたが、夏に夢であったパイロットになれないことが分かり勉強もテニスも辞めて遊ぶようになりました。遊ぶようになってからは、今までの縛りなどの開放から抜けヤンチャなことばかりしていました。バイクに乗って遊んだり、朝まで友達と遊んだりとバカなことばかりしていました。

高校卒業後、親の勧めで徳島文理大学の薬学部に行きましたが自分のやりたいことと違い半年で辞めそこからピザの配達や焼肉屋でバイトをしながら次の道を考えていました。そして、やはり航空関係で働きたいと思い大阪のホスピタリティツーリズム専門学校のエアポート科に入学しました。そこでは、将来グランドハンドリングに就職するために専門的な勉強し国際資格である国際航空貨物取扱士と言う航空貨物を外国に送るために必要な知識、例えば料金や最適なルートの選択方法、飛行機に関する知識を得るための勉強をしました。
グランドハンドリングですが、よく空港で蛇みたいな乗り物で荷物を空港から飛行機に運ぶためのものです。
この学校の方が薬学部より面白いし、めちゃくちゃ楽しかったです。やっぱり好きなことだと勉強も真剣にするので、有意義な学生生活を送ることができました。
無事２年間で卒業でき卒業後、鴻池エアポートサービスという会社に入社しました。この会社が全日空の協力会社で関空で働いていました。仕事内容は輸出の貨物を梱包し航空機まで搬送をしていました。輸出貨物で記憶にあるのは福山から中国に錦鯉を輸出したり、生きたモルモットを輸出したりと生きた動物も積み込みをしていました。空港といえば聞こえはいいのですが、やっぱりパイロット・CA が花形で僕たちはどちらかといえば、縁の下の力持ちという感じで、パッとしませんでしたが、仕事は楽し

かったです。ドラマみたいに CA と仲良くなれるかなと思ってもいたのですが、全く相手にもされないです。僕たち作業員は、淡い期待を描いていましたが、現実を見たので仕事にばかり打ち込んでおりました。そして、一年で辞めました。理由は糖尿病の病気がひどくなったので体力的にしんどくなったからです。本当は辞めたくなかったですが、病気のこともあり退社することを決意しました。
そこからモデルとバーと美容室の受付を掛け持ちのバイトをしていました。美容室は大阪駅のルクアと言う百貨店の９階にある『フルショウ』と言う所でバイトをしていました。モデルもしていたことから見た目で初めて男性で美容室の受付をさせていただきました。BAR は当時お酒も好きで人と話すことも好きでしたので楽しくバイトをしていました。モデルは関西ウォーカーと言う関西のお出かけ雑誌に毎月出ていたり、一番の思い出は歌手の広瀬香美さんのエスコート役をやらせて頂いたこともありました。
こんなフラフラした生活を１年続けている時に友人たちと話す機会に『このままの生活やばいよね』って話になり、きちんと就職しようと思い求人情報誌を見たときに営業をやれば稼げるし、かっこいいと思い色々探していると楽天物流株式会社と言う会社を見つけすぐに面接を受けたら、受かり入社させていただきました。ここの会社は、その当時 Amazon が倉庫に全国からいろんなお店さんが商品を入れてそれを Amazon から発送という仕組みを作っていて、それを楽天が関西で初めて立ち上げてやろうとしていた仕事です。その立ち上げ・営業として入社しました。そこの仕事はめちゃめちゃ楽しかったです。僕の業務は楽天市場の経営者さんに対しての営業活動でした。そこは３年勤めましたが、辞めました。
辞めた理由は次の仕事をやるつもりで辞めました。次の仕事とは今の仕事にもつながるハウスクリーニングの仕事です。なぜハウスクリーニングに興味を持ったかと言うと知り合いに誘われたからです。やってみると楽しく綺麗になると『ありがとう』と言われることが心から嬉しくなった記憶があります。
そこを３年働いた時に福山にいる父が倒れて介護が必要になると言われたのですがまだ福山には戻りたいとは思っていなく大阪に残りました。その際にハウスクリーニングの会社が経営危機で倒産したので、違う会社に行きました。その会社が車屋で車が好きで自分でも触ったりしていましたので、将来車屋でもしようかと思っていましたが、働いている時に実家から連絡が入り父親の介護が必要になってしまい母親１人で介護は厳しいとのことでしたので、車屋になることを諦めて福山に帰りました。また同じ時期に祖母も倒れて施設に入っていまして、生前整理を目の前にして業者に依頼することを考えていたのですが、ハウスクリーニングの仕事をしていた時に、遺品整理生前整理もしていたので、自分でもこれだとできると思い起業しようと思いました。

続いて僕の会社のご紹介をさせていただきます。
・２０２１年４月設立
仕事内容は、遺品整理・不用品買取り・ハウスクリーニングを主に事業を展開しております。
現在は僕ともう一人のスタッフで活動しております
・なぜこの仕事で起業するに至ったか？
先程お話しした通り、父親が倒れて、遺品整理をすることを母親と兄で決めていくときに遺品整理を自分たちでやるのは大変で、どこかの業者がないか調べても、その当時なかなか遺品整理という項目では僕は見つけることができなくて（おそらくあったのだとは思いますが）、昔からの友達が当時、名古屋で買取り事業を自身でしていると話を聞き、福山に帰ってきて一緒にやらないかと声をかけました。その時は経験の少ない僕だけじゃなくて経験を積んでいるスタッフがいる安心感もあってすぐに起業準備に入りました。

・この仕事をやってみてから
起業してまず僕が最初にしたことは、周知をしてもらおうと思い、昔から父親がお世話になっていました看板屋さんに看板広告をお願いしました。ネット広告もしました。起業して思ったのですが、僕が知らなかっただけで、福山でもかなりの買取り屋さんや遺品整理をしている会社が多いことに気づきました。
この仕事をやってみてよかったなと思うことは、どんな状況のお客様でも最後には本当に助かりました、ありがとうございますと必ず言ってくれるところです。大変なことは、リピーターがつきにくい・ずっとお客さんを取り続けないと売り上げが安定しないことです。仕事内容的にはすごく時間と体力がいる仕事なのですがそこはわかっていてしているので特に問題はないかと思いますがとにかくきつい仕事ではあります。
少しずつですが売り上げが上がってはきているのですが、全然思うように売り上げが伸びません。
ただ初年度と違うところは、お客さんが少しずつ声をかけてくれるようになり、新規のお客さんが増えてきているということです。先程お話ししたように、一般の集客が全くと言っていいほどなくて、まずどうやって行くべきかを僕自身が悩んでおります。一度会社を閉じようかとも思いましたが、今少しずつ声をかけてくれる方も増えてきていますので、応援してくれている方々に感謝しておりますので、やっぱり頑張ろうとは思っております。あと、僕がこのままではいけないと思い、ハウスクリーニングの部門も最近立ち上げました。なぜハウスクリーニングかというと、昔働いていて、そのノウハウがあるので、ものが無くなったあと、綺麗にして欲しいとお客様からどこかないですかと聞かれることが多かったので、そちらも一緒にすることにしました。僕はこのハウスクリーニングも周知してもらって売り上げ UP に繋げていこうと今動いております。ぜひ工務店様・飲食店様全ての皆様ハウスクリーニングは僕のところでお願いします笑。

【 そ の 他 報 告 】

《 入 会 式 》

【新入会員紹介】

氏　　名	竹信 勝利　さん
生年月日	昭和 54 年 7 月 18 日
職業分類	建築業
推 薦 者	渡邉　祥子 さん
アドバイザー	松井　宣久 さん
所属委員会	親睦委員会
	職業奉仕委員会
	社会奉仕委員会

《 各 種 表 彰 等 》

【会員増強貢献会員 表彰】

黒木成光さん・岡﨑隆さん・渡邉祥子さん

【クラブ活動報告】

特にありません。

世界に希望を生み出そう